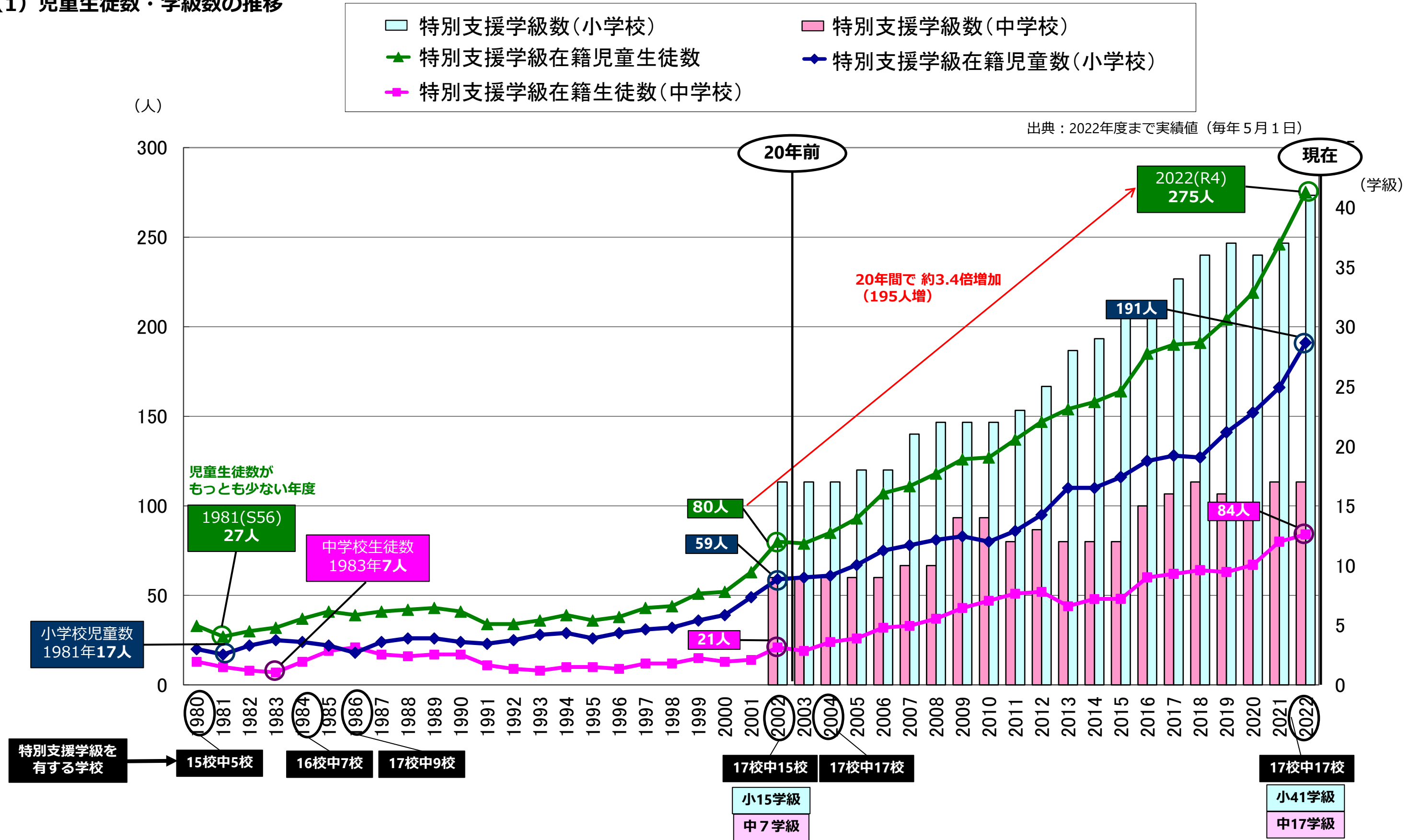


**一人ひとりの状況に合った学習について
(特別支援教育、国際教室、少人数指導等)**

1. 特別支援教育の状況

(1) 児童生徒数・学級数の推移



- 2004までに全ての小中学校に特別支援学級を設置。
- 過去20年間では80人から275人に増加（3.4倍）。

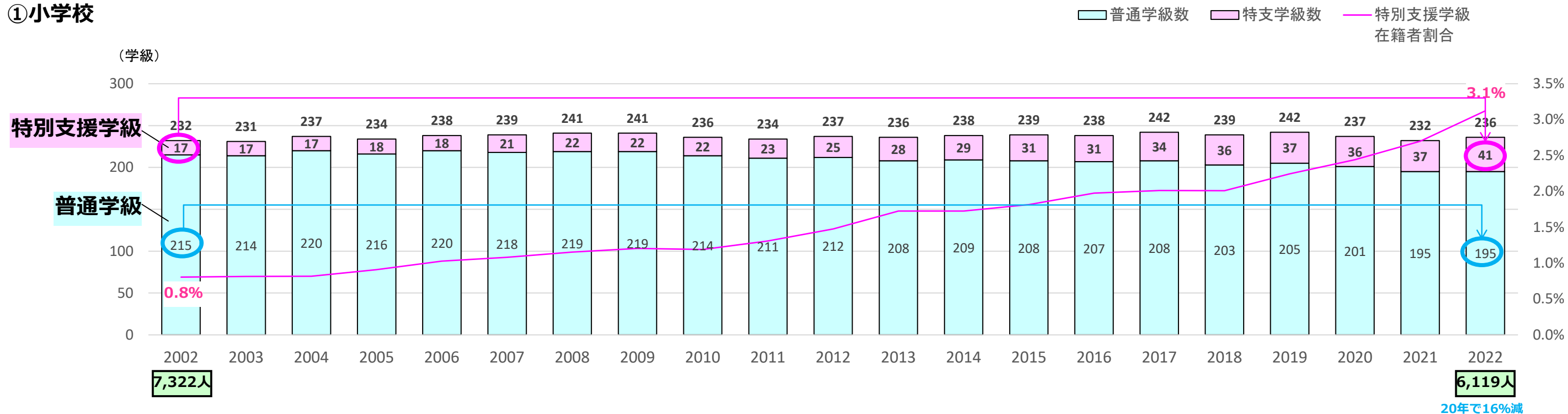
✓ 過去20年間の普通学級児童生徒数は減少傾向だが、同時期の特別支援学級の児童生徒数は急増傾向にある。

✓ 児童生徒一人ひとりの多様性を尊重した教育が求められている中で、今後も、特別支援学級のニーズは、継続することが考えられる。

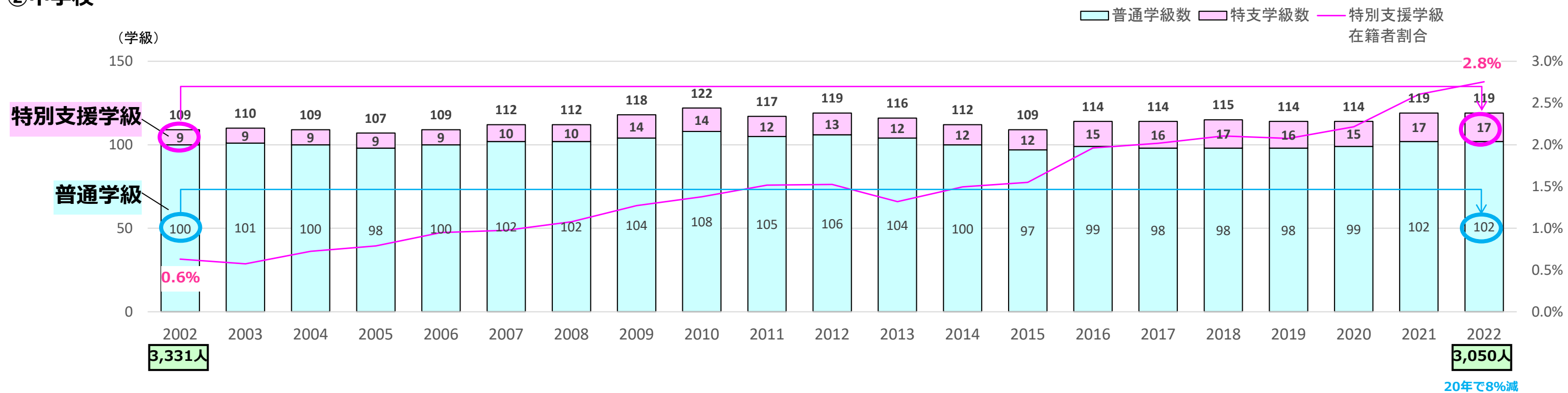
1. 特別支援教育の状況

(2) 学級数の推移

① 小学校



② 中学校



- 過去20年間、普通学級数は横ばい～減少傾向にあるが、特別支援学級数は増加傾向にある。
- 小学校では、普通学級数の減少より特別支援学級の増加幅が大きく、全体の学級数は増加している。中学校でも、普通学級数が2学級増にとどまっているのに対し、特別支援学級は8学級増加している。
- 児童生徒数全体に占める特別支援学級在籍者の割合は、過去20年で1%未満から3%前後まで上昇。

✓ 将来的に普通学級が減少しても、特別支援学級が増加することで、これまでのような普通学級の減少による余裕教室・転用可能教室の発生は見込めなくなることも考えられる。

1.特別支援教育の状況

(3) 学校別保有・運営状況

- 大きく分けて固定学級の「特別支援学級」と、通常学級に在籍しながら通う「通級指導教室」があり、知的障がいおよび自閉症・情緒障がいを対象とした特別支援学級は市内の全小中学校に配置されている

① 特別支援学級（原則:対象児童・生徒が自校に1名以上で設置）

種別	設置校
知的障がい学級	全17小中学校
自閉症・情緒障がい学級	全17小中学校
病弱・身体虚弱学級	ひばりが丘小、立野台小、座間中、西中、東中
肢体不自由学級	座間小、栗原小、ひばりが丘小、相模が丘小、入谷小、西中、東中、相模中
弱視学級	相模が丘小

固定の支援学級が全校に用意されている。

支援を要する児童・生徒がいるときに、該当児童・生徒の通学区域校に設置される。

✓ 特別支援学級の児童生徒は年々増加傾向にあり、大規模校などの児童数増加校では、今後教室の確保が課題となる。
 ✓ 肢体不自由級、病弱・虚弱級、弱視級は支援を要する児童・生徒の通学区域内の学校に設置されるが、児童・生徒によっては、学校側のバリアフリー設備等が十分でない場合がある。

② 通級指導教室（原則:対象児童・生徒が自校と他校を合わせて10名以上で設置）

- 週1回程度通級して、障がいの程度の改善を図り、それを克服する心構えや態度を身につけさせ、充実した生活が営めるよう指導する。

種類	対象など	設置校
「ことばの教室」 言語障がい・難聴など	「言葉の発音に誤りがある」 「話をするときにつかえる」 「きこえが悪い」 などの子どもが支援を受けられる教室	相模野小 入谷小
「情緒通級指導教室」 自閉症、LD、ADHD、 発達障がいなど	「集中して学習することが苦手」 「相手の思いや感情を考えて行動することが苦手」 「集団の中で指示を聞くのが苦手」 等の子どもたちが支援を受けられる教室	座間小 相模が丘小 立野台小 旭小

※通級指導教室のない学校の児童は、保護者の送迎により設置校での指導に参加することができる。 市内を4つの地域に分割した上で、どの地域からもアクセスしやすいよう設置校を設定している。

✓ 通級指導教室の設置は一部校に限られており、未設置校の児童は、保護者の送迎のもとで他校へ通級する必要がある。

③ 特別支援学級・通級指導教室の学級数・教員配当数(令和5年度)

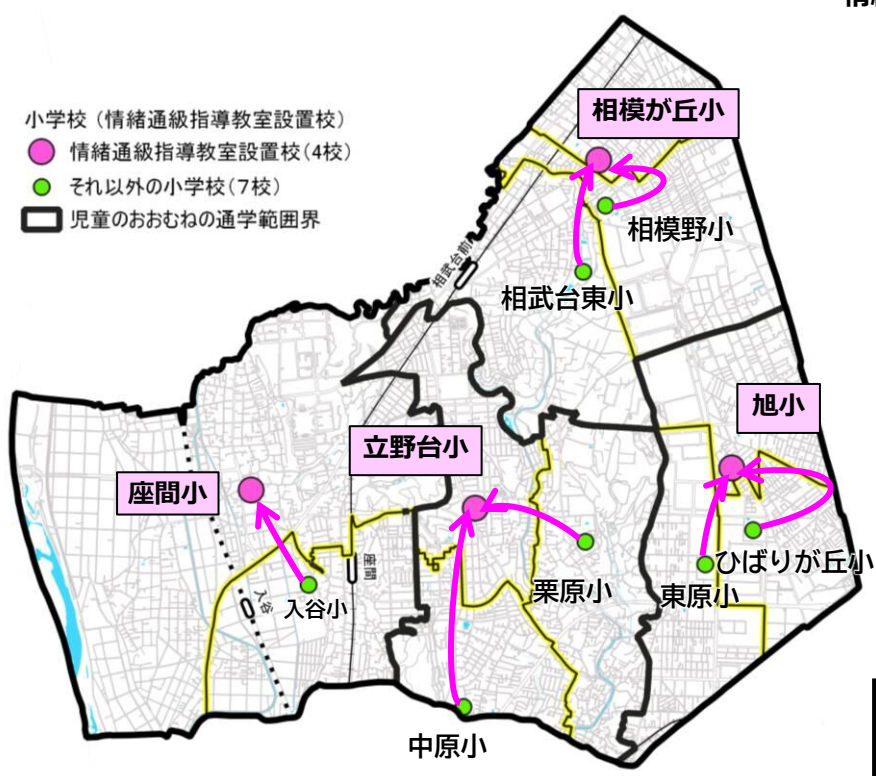
	配当教職員数			特別支援固定学級数						通級指導教室		
	特支合計	固定	通級指導	知的	自閉症・情緒	肢体	病弱・虚弱	弱視	学級数計	自閉・情緒	言語	児童数計
座間小学校	8	5	3	3	2	1	0	0	6	32		32
栗原小学校	6	6	0	2	2	1	0	0	5			
相模野小学校	5	4	1	2	1	0	0	0	3	10		10
相模台東小学校	2	2	0	1	1	0	0	0	2			
ひばりが丘小学校	4	4	0	1	1	1	1	0	4			
東原小学校	2	2	0	1	1	0	0	0	2			
相模が丘小学校	6	3	3	2	2	1	0	1	6	31		31
立野台小学校	6	4	2	3	1	0	1	0	5	24		24
入谷小学校	4	3	1	2	1	1	0	0	4	15		15
旭小学校	3	1	2	2	1	0	0	0	3	21		21
中原小学校	3	3	0	1	1	0	0	0	2			
合計	49	37	12	20	14	5	2	1	42	108	25	133

言語通級利用児童のうち、64%が他校からの通級

知的、情緒の学級数は各校に1学級以上配置され、二ーズが大きい

通級指導教室は小学校のみ。133名と需要はあるが、各学校ごとに配置されていない。

④ 情緒通級指導教室の設置状況



情緒通級児童数における設置校・他校児童の割合

実施校	児童所属校	通級児童の割合		
		2021	2022	2023
旭小 情緒通級指導教室	ひばりが丘小	12%	18%	19%
	東原小			
座間小 情緒通級指導教室	旭小	88%	82%	81%
	入谷小	0%	0%	3%
相模が丘小 情緒通級指導教室	座間小	100%	100%	97%
	相模台東小	8%	9%	13%
立野台小 情緒通級指導教室	相模野小			
	相模が丘小	92%	91%	87%
	栗原小	14%	10%	8%
	中原小			
	立野台小	86%	90%	92%

情緒通級利用児童のうち、90%が自校通級の児童

✓ 4校に設置し、他の小学校の児童は設置校に通級できる。
 ✓ 例年、100-110名が利用。
 ✓ 利用者は、各指導教室ともに設置校の児童が81-97%。

アンケート

- 通級時の親の送り迎えが必要で負担が大きい
- 各校に整備して欲しい

情緒通級指導教室の利用を理由にした区域外就学は認められていないことから、非設置校にはサポートを必要としながらも、支援の手が届いていない子どもがいる可能性がある。

1.特別支援教育の状況

●座間市立小中学校の教育環境に関するアンケート（2022年11月実施）

自由回答より抜粋（自由回答記述者525名 特別支援教育に関する意見・要望 全46件）

【保護者】

- ・通学区域が変わっても今と同等の支援が受けられる事。
- ・特別支援教室の親御さんが送迎しやすいように、車を停めるスペース等が確保してあること。
- ・どの学校にも通級や支援級など、支援が必要な子供たちを受け入れられる教室を確保して欲しいのと、それに伴う支援員の充実をお願いしたいです。
- ・通級や特別支援級は近隣の学区でも通えるようにしたほうがいいと思う。座間市に知的の特別支援学校が小学校、中学校ともないので、地域の学校でも同等の支援が受けられるような体制を整えてほしい。海老名に通うのは遠くて、子供の負担になる。
- ・通級がない学校の通学区域で通級を希望する場合は、通級がある学校へ入学可として欲しい。
- ・通級に通っています。子どもの学校に通級指導室がありますが、設置されていない他校から通う子もいると聞きました。その場合移動時間の前後の時間に授業に全部参加できないうえに、保護者が送り迎えにしないといけないと聞きました。学校によっては障がい児の親はフルタイムで働くことが厳しいです。
- ・支援級を望みましたが、コミュニケーションが取れることなどで無理と言われました。ADHDと自閉症の診断も出して頂いたのに、本人が難しいからという教科だけでも支援級で授業が受けれる指導員の確保をして頂きたいです。
- ・特別支援教育や通級指導教室などはもう少し充実させても良いと思います。通級のない学校もあるとのことでしたので各学校にあると良いのではないのでしょうか。
- ・障がい等や配慮考慮が必要な生徒は、専門性が重要になってくるので、特別支援学校、通学区域学校、サポート校等への併用通学を検討するべきと思います。
- ・支援級に通う児童は登下校に親が付き添わなくてはならず、かなりの負担です。サポートがほしいです。
- ・就学中の子供の他に下の兄弟も支援級を利用すると思われます。支援級が利用できる教室の増加と支援級に携わる教員の人数が増えて欲しいと思います。

【教職員】

- ・支援級に属さない個別の支援を要する児童が増えてきているため、各校に通級指導教室等の個別支援できるクラスがあると大変助かります。
- ・配慮が必要な児童とその保護者はもちろん、教職員の負担にならない範囲での通常とは別の学区設定など柔軟な対応が必要と考えます。
- ・特別支援を必要とする児童数の増加とともに必要とされる支援や環境も多様化しているため、施設の充実及び担当人員の養成が不可欠だと感じます。

アンケート結果からは、保護者・教職員共に

- ①通級指導教室の各学校への設置、または通級指導教室のある学校への区域外就学
- ②特別支援学級や通級指導教室に送迎するための親の負担軽減
- ③教員や支援員数の充実、人員の育成

等の要望が多かった。

(4) 今後の特別支援教育の方向性（案）

- すべての児童生徒に必要な支援が行き渡るよう、引き続き対応する。
- 情緒通級指導教室については、小学校全校での設置を目指し、中学校では、対象生徒が在籍する学校への巡回式による情緒通級指導教室設置についても検討する。
- 言語通級指導教室については、対象の児童数が減少する場合、市の中心に近い学校に設置することを検討する。

- ✓ 特別支援学級は全校にあるが、通級指導教室等のニーズはあるため、学区、教室整備、教員の育成等のバランスを取りながら、充実を進めていくことが今後求められていくと考えられる。

3. 少人数指導の状況

(1) 概要

- ・ 少人数指導とは、特定の教科指導時の人数を少人数にして行う指導。
- ・ 一人ひとりに目が行き届きやすく、学力・学習意欲の向上を支援しやすい。

(2) 実施状況

小学校			中学校		
算数	3年	3校	数学	1年	2校
	4年	3校		2年	4校
	5年	2校		3年	1校
	6年	1校	英語	1年	3校
		2年		1校	
		3年		1校	

- ・ 小学校では、算数で実施している。3、4年生で学習内容の難易度が上がる傾向があるため、きめ細かな指導を行う目的で実施している学校がある。
- ・ 中学校では、数学や英語で実施している。スタートである1年生できめ細かな指導を行いたい考えがある。また、2年生では、学習内容の難易度が上がる傾向がある数学で実施している学校が多い。
- ・ T・T（チーム・ティーチング）指導を実施している学校もある。1つの教室に2名の教員が入り、きめ細かな指導を行っている。

(3) 今後の少人数指導の方向性

- ・ 現在の少人数指導は、1学級を2分割し算数・数学、英語の指導を実施しているが、学習用端末が1人1台整備されたこともあり学び方がこれまで以上に多様化すると考える。小グループや個別の学習活動、学級の枠を超えた活動など、多様な学習形態が想定される。

- ✓ 多様な学習形態に対応できるスペースがない。
- ✓ 空き教室があっても教室と同じフロアにないことが多く、活動場所を分ける時に、教室と離れてしまう。

(4) 多様な学習形態に対応できる施設の方向性

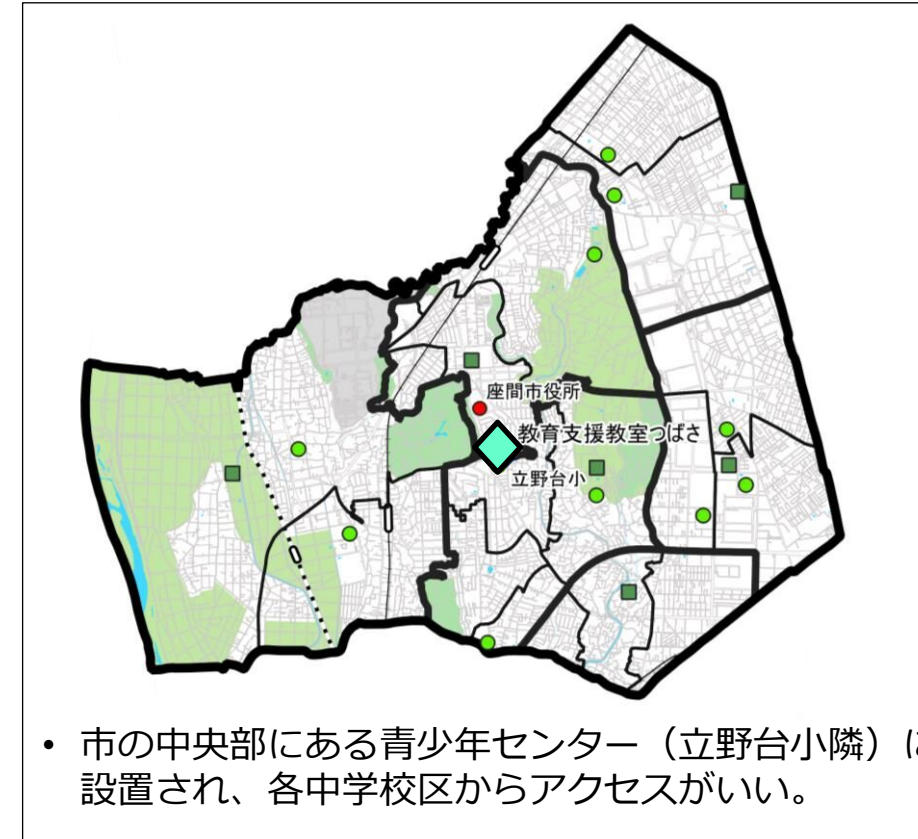
- 少人数指導をはじめ多様な学習形態を取り入れて学習活動を展開できるように、施設の更新時には1.5～2教室分のオープンスペースを各階に配置する。

4. 教育支援教室つばさの状況

(1) 概要

- ・ 心理的要因で学校に登校できない小・中学生の為、学校外にある通級施設。
- ・ 安心して身の置ける居場所で、人とかかわる力を回復し、学ぶ意欲を伸ばしながら、学校復帰や将来の社会的な自立につながるよう支援する。

(2) 施設配置および利用人数



- ・ 市の中央部にある青少年センター（立野台小隣）に設置され、各中学校区からアクセスがいい。

在籍者属性	利用人数 (2023)	
小学生	1人	
中学生	1年	0人
	2年	4人
	3年	2人
合計	7人	

- R5年度からは小学生の利用者もいる。

- ・ 2022（R4）年度現在の利用者数は11名で、全員が中学生。
- ・ 2023（R5）年度は小学生も含め7名の利用者がいる。
- ・ 小学生の不登校児童増加にともない、小学生の見学希望が増えている。

(3) 今後の教育支援教室つばさの方向性（案）

- 民間のフリースクール等との連携や、他の公共施設を活用した居場所の確保についても検討する。